



相さう八はち釋迦しやくた

万亭  
應賀作



倭文庫

七編

万亭所撰  
一陽齋主人圖

二卷



知化四年  
丁未著  
新板



万亭應賀作  
天保十六年  
 国貞改  
 一陽齋豊國画  
乙巳春新刻



釋迦八相倭文庫  
 初編全四冊上之卷

錦重堂版



壹

叙  
 大集經未來記ふと曰如あまく自法みづか隱没あやと説とき  
こと今いまのときのふ合あいはせ見らふ不ふ思し後ごろろのま廿に六じ意い  
 不ふ違ちがひなくの心こころ顛たん倒して武家ぶが家が審判しん大だい審しん判はんが  
 二に本ほん亭てい主しゅと嫌みな女に房ぶどうあり予の十八葉はつ雨あめて  
 我われ作つくらしたらんがせどえんのり師し因いんを取りとせ  
 ちと書かきしる一點てんも統とをゆひりんの様知ちる方便べん  
 四十しじゅう年ねんの元祖げんその河れはたらぬ小釋しやく迦か八はつ相さうの物  
 活かつをれおえて是これを著行あす  
天保十六年 二十五歳の發行  
乙巳の春 二十番之内  
 万亭應賀作

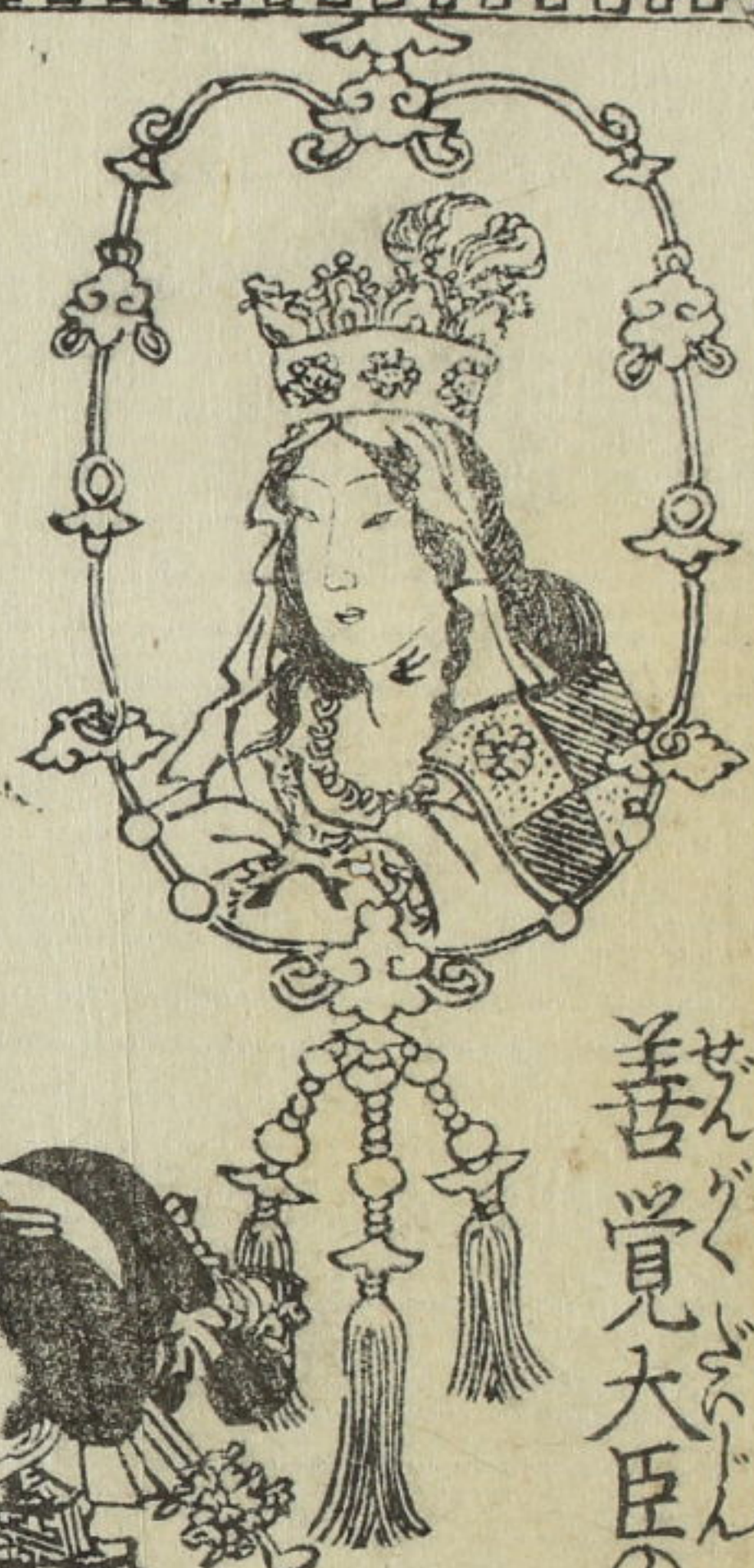


善覚大臣の姉娘  
橋雲弥



中天竺迦毘羅城

三十七代  
浄飯大王



善覚大臣の姉娘  
摩耶夫人

優陀夷女房



淨飯王の忠臣 優陀夷 悉達太子 奉守







つきかほの玉牙五  
あつらひの玉より  
そまへる玉の  
かみ切り身はふ  
やあうと  
玉のちこ  
や七本  
み天の  
のうり  
山乃  
陸  
余  
の  
右の  
七  
り  
る

あつらひの玉より  
そまへる玉の  
かみ切り身はふ  
やあうと  
玉のちこ  
や七本  
み天の  
のうり  
山乃  
陸  
余  
の  
右の  
七  
り  
る

△  
あつらひの玉より  
そまへる玉の  
かみ切り身はふ  
やあうと  
玉のちこ  
や七本  
み天の  
のうり  
山乃  
陸  
余  
の  
右の  
七  
り  
る

△  
あつらひの玉より  
そまへる玉の  
かみ切り身はふ  
やあうと  
玉のちこ  
や七本  
み天の  
のうり  
山乃  
陸  
余  
の  
右の  
七  
り  
る

あつらひの玉より  
そまへる玉の  
かみ切り身はふ  
やあうと  
玉のちこ  
や七本  
み天の  
のうり  
山乃  
陸  
余  
の  
右の  
七  
り  
る

降版大王  
おののちり  
ど

あつらひの玉より  
そまへる玉の  
かみ切り身はふ  
やあうと  
玉のちこ  
や七本  
み天の  
のうり  
山乃  
陸  
余  
の  
右の  
七  
り  
る















倭文庫

全四冊

國貞改  
一陽齋  
豊國画



乙巳春  
新版

下

錦車堂板



志也加八相

倭文六

初編下冊

應賀作

國貞改  
豊國画



人形町通大坂下代地角



さるやと初大長かの人  
ひめとめい今かびり  
のりてまろせんく大長  
ごかきりくとをうり  
みるどやまきくお  
まめてまろりとも  
く死あひ  
すまらち  
小玉の王  
多世あゆんとて  
善覚王とて  
あがり世せろのれ  
こんとやとせん  
かくららとせ  
ちん  
かの  
たる  
ひは  
らる

善覚王 泰内

あつた  
るりとみ  
あつた  
るりとみ

月のこと

月系殿ふらじのり

戸耶  
るらけて

あつた  
るりとみ  
あつた  
るりとみ

かつた  
るりとみ



























倭文庫二編

万亭應賀作

上

町通上妙屋板





豊園口  
園唐也

應賀作

豊國画

あやうらうらやまといふ

# 釋迦八相倭文庫

二編上

弘化三丙午年新刊

江戸人形町通

上剌屋重藏版

釋迦八相倭文庫二編序

抑中天竺迦毘羅城三十七代淨飯大王の后摩耶

夫人王子懐胎ありより妙の轎曇弥嫉妬あり一念十

六丈の蛇形とるりあきと怨身と悲そて内縛外縛業縛乃

無明の法の調伏も二百六十餘流の血筋を搦めたて衝

突鎗梅ありとも倒よ花の散す胎の鶯含法華經の玉との

たる仏童子が神力自在の奇特ある一代修行も基はけと

戲作の筆れあきよは直ふ倭文庫と題ると爾で

弘化三年丙午春新版

万亭應賀識



本女...



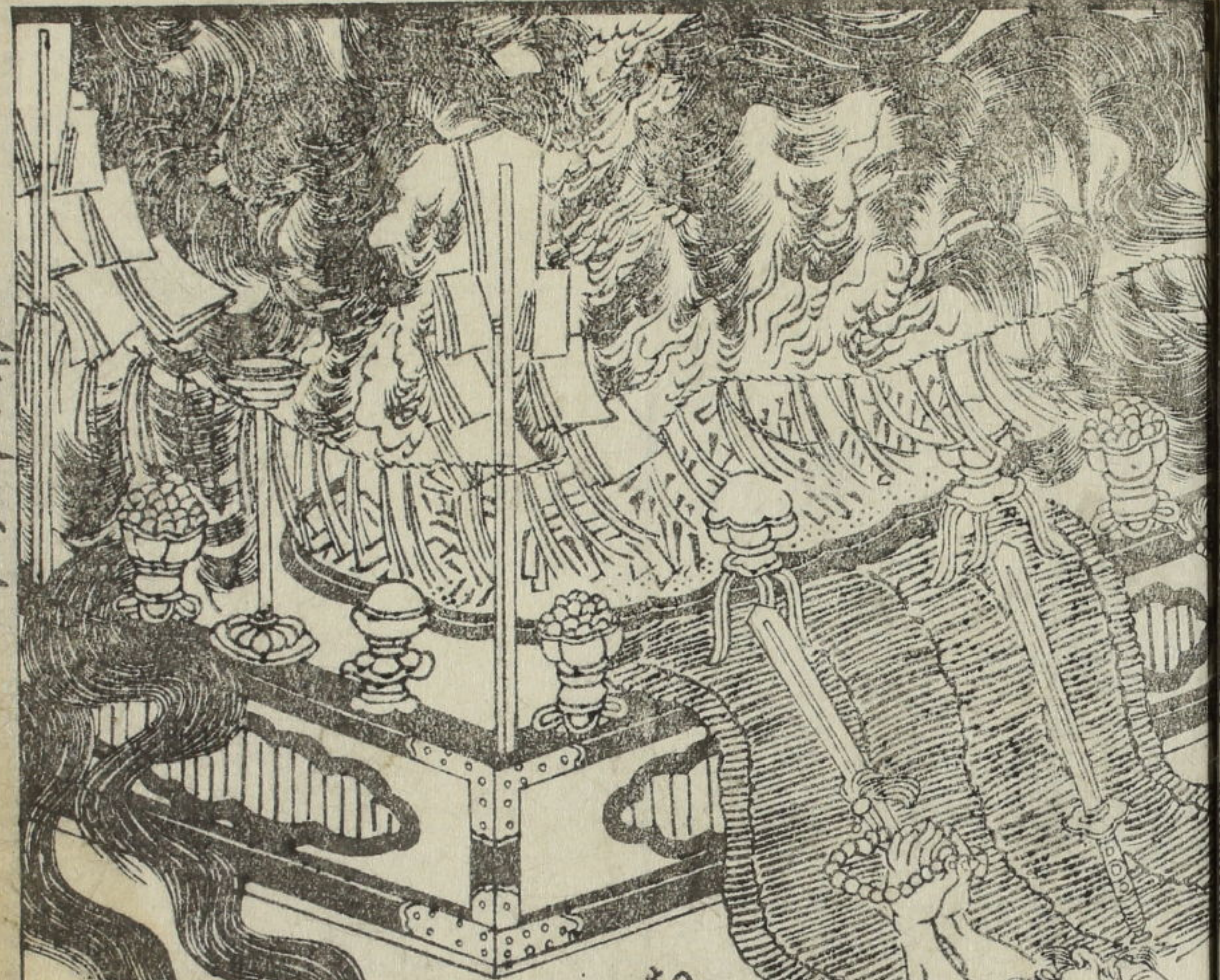
馬將軍  
 二人の行者  
 儀伯  
 仙人  
 無間  
 調伏の法と頼む

轆曇弥の嫉妬の  
 一念青蛇形と顕れ  
 青龍城の  
 摩耶夫人  
 と怨む





摩耶夫人



朱女入森二

又たまに舟に  
ちゆうぶくのだんふん  
ひつひつありのまの  
むもよとろろたるりさるやま  
きんぐ仙人よりのつらとら  
天孫の神ありの東神あり  
と三つのねんまはまはせ  
殿中や百八十坪のへん  
あつたみりつれりけん  
あんなんありのあつた  
はやま人もあつた  
せきくもあつた  
地の下へけいしのか甲



なり  
とら  
るる  
けい  
ん  
び  
と



朱女入森二

初へつる  
はまの  
二入りの  
まの  
つらとら  
あつた  
これ中  
つらとら

か  
ま  
あ  
た  
う  
と  
か  
さ  
の  
百  
八  
十  
坪  
の  
へ  
ん  
あ  
つ  
た  
み  
り  
つ  
れ  
り  
けん  
あ  
ん  
な  
ん  
あ  
り  
の  
あ  
つ  
た  
は  
や  
ま  
も  
も  
あ  
つ  
た  
せ  
き  
く  
も  
あ  
つ  
た  
地  
の  
下  
へ  
け  
い  
し  
の  
か  
甲





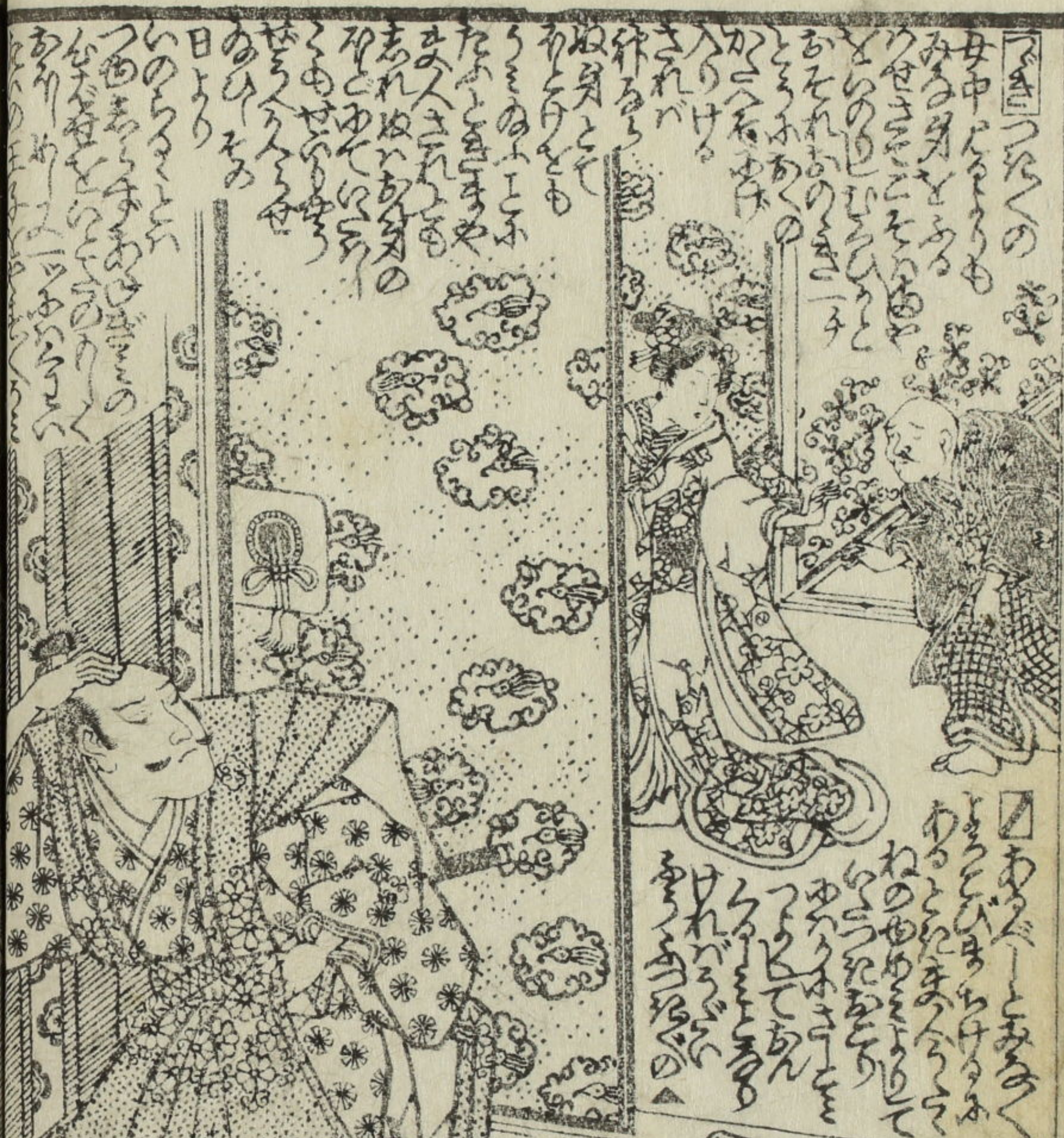






おとよびてしるしての  
うれしきもいりりり  
りりりりりりりりりり  
きりりりりりりりりりり  
けりりりりりりりりりり  
まてりりりりりりりりりり

おとよびてしるしての  
うれしきもいりりり  
りりりりりりりりりり  
きりりりりりりりりりり  
けりりりりりりりりりり  
まてりりりりりりりりりり



おとよびてしるしての  
うれしきもいりりり  
りりりりりりりりりり  
きりりりりりりりりりり  
けりりりりりりりりりり  
まてりりりりりりりりりり







陽齋豊国画

丙午  
春  
新板































上

町通上柳屋板



午之 春新板

豊國のみ 園唐書

錦重堂 上梓

應加賀作

豊國画

上冊

倭文庫三編

釋迦八相



釋迦八相倭文庫三編の序

夫摩耶夫人の懐胎と諸佛結縁して安く太子の誕生を以て  
忽地天上天下唯我獨尊の形とつれと天哉性哉血筋乃  
母の別をあらはれ継母のまゝ育や三歳あて初て未  
来の母を深く意首恭すこれを三歳の出家と云されが轎  
曇弥の悪念も一時の懺悔も罪障消滅して悉達太  
子の諱始冠定の祝ひを賀ふ真如の眉みらりる月  
景殿のつとまうまも一犬の虚吼ると万賢の御見物操方  
必実の傳へづるべ

弘化三年

丙午の春新版

万亭應賀述

倭文庫



優陀夷

光明大臣



悉達太子  
初て冠  
と着

優陀夷の  
女房

有る

浄飯大王  
月景殿の  
轎曇弥小  
通親  
賜ふ

命婦

轎曇弥





















陽齋豊國画

万亭應賀作

丙午ノ春  
新板



下







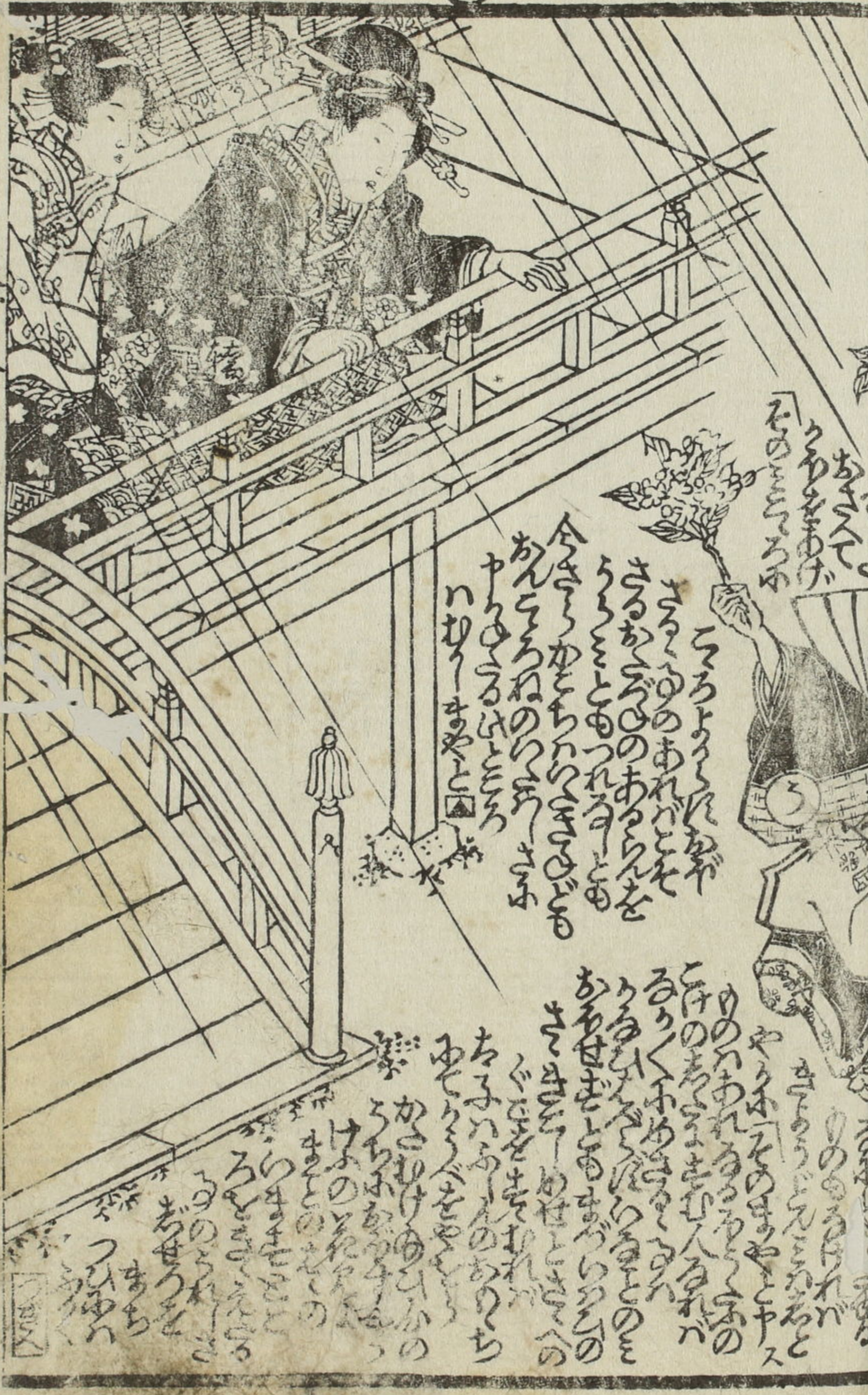








木母文庫三



木母文庫三

十五















万亭應賀作

新版

錦重堂梓

上



釋迦

八相

倭文庫四編上

弘化三年午春新板

万亭應賀作

元大坂町代地  
上州屋重藏板



一場齋豊國画

門人國正又画

釋迦八相倭文庫四編の叙

夫天の命を二五の性理精きと受て生るるの人也性  
理偏氣ふ埋まて生るるのの畜類也性理幽微るると受

て生るるのの草木也さればその性理の精きと受て生るる中も  
猶貴に賢仙と望太子のれ歳七也あて小弓の勝負と射玉

のひ大悪無双の従弟と提婆達多と拵いしが終小射勝玉  
いしより提婆の意恨の始め叔太子九也ふして初学乃

師の身頭賢弟の院迂り面書鱗馬虎頭の筆勢皆流  
通あるはましとおがつるもあやると冬籠る此草冊子何

弘化三年丙午春新版

万亭應賀述



倭文庫四



於彌之曇之轎

女房

女房



采心達太子御歳  
七女めく小弓の  
勝負と催し  
賜ふ図

采心達太子  
東の大將  
大太郎

采心達太子御歳



















二世陽齋豊國画



下

倭文庫四編

しんぎん





豊應賀作  
園画

午ノ夷彩板

任満堂



ぬむよの四八ん下

大形町通

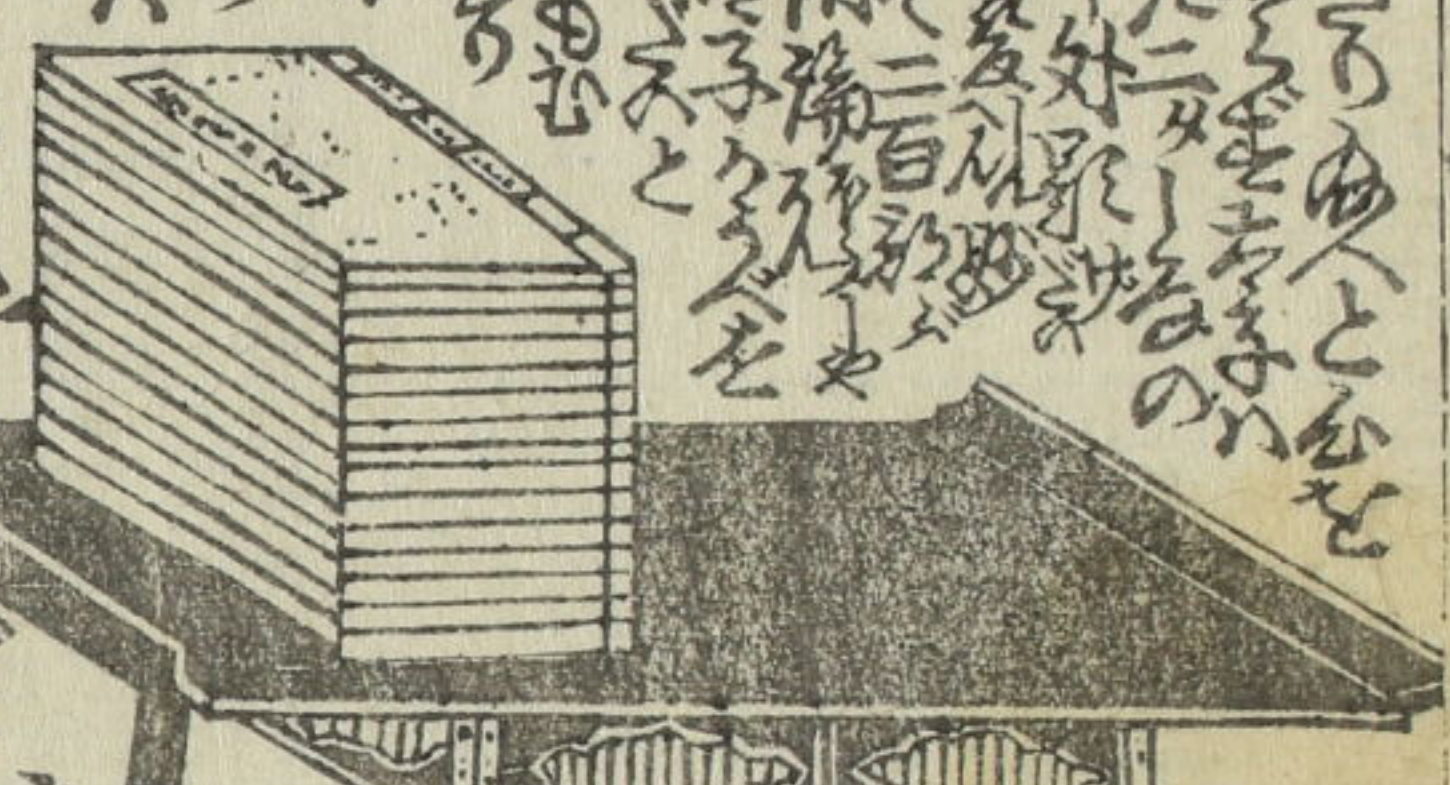
上柳屋板

国受包

Handwritten Japanese text in vertical columns, including a circled character '三' at the top left and a circled character '壽' on the man's chest. The text appears to be a commentary or a story related to the illustration.



『さかあへ』と云ふてその名とを  
つゝのまふありて外に二  
とあると云ふは二  
とあると云ふは二  
とあると云ふは二



『さかあへ』と云ふてその名とを  
つゝのまふありて外に二  
とあると云ふは二  
とあると云ふは二



『さかあへ』と云ふてその名とを  
つゝのまふありて外に二  
とあると云ふは二  
とあると云ふは二



『さかあへ』と云ふてその名とを  
つゝのまふありて外に二  
とあると云ふは二  
とあると云ふは二

















一陽齋豐國画の万亭應賀作の



此の巻は、陽齋の御筆にて、  
 万亭應賀の御作にて、  
 此の巻は、陽齋の御筆にて、  
 万亭應賀の御作にて、  
 此の巻は、陽齋の御筆にて、  
 万亭應賀の御作にて、



五編六八七八九

板元

釋迦八相倭文庫

二編編 万亭應賀作  
 三編編 歌川豊国画  
 四編編 歌川豊国画

小栗一代記

初編編 松亭金水作  
 二編編 歌川豊国画

常磐津懐中寄本

小本五册

富本懐中寄本

小本五册

奥奉公娘一代成人雙六

万亭應賀作  
 歌川豊国画

重地本錦繪團扇

人形通元  
 上妙屋室藏



